KANADEN

2026年10月16日

各　位

株式会社 カナデン

カナデン、RSYNQへ200万米ドルを戦略的出資

フィジカルAI時代に向け、日本市場におけるロボティクス・オーケストレーション事業を共同推進

この度、株式会社カナデン（本社：東京都中央区　代表取締役　守屋　太、以下「カナデン」）と、米国のフィジカルAIインフラストラクチャ企業であるRSYNQ Corporation（本社：米国 カリフォルニア州　CEO Alexander Mecl、以下「RSYNQ」）は、カナデンがRSYNQに対して200万米ドルの戦略的出資を実施したことをお知らせいたします。

本出資を契機として、両社はRSYNQが開発するSemantic Intent Protocol（SIP）の日本市場における事業展開を加速し、ロボティクス、産業オートメーション、インテリジェントマシン、次世代社会インフラ等の領域における商用展開を共同で推進してまいります。

RSYNQは、異なるメーカーのAIシステム、ロボット、センサー、機械、自律型デバイス等を、共通のセマンティック・フレームワークを通じて連携・協調させるためのオーケストレーション／コレオグラフィ・レイヤーを開発しています。SIPは、AIエージェントや各種ソフトウェアが生成する高次の意図や目的を、個々のデバイスが実行可能な具体的な動作へと変換し、複数の機器・システムをリアルタイムで連携させることを目的としたミドルウェア基盤です。

今回の出資により、RSYNQはSIPの研究開発をさらに推進するとともに、エンジニアリングおよび事業開発体制の拡充、日本市場における事業基盤の構築を進めてまいります。

フィジカルAIを支える新たな基盤

近年、人工知能は、情報を理解し、推論し、意思決定する能力を急速に高めています。次の大きな課題は、こうしたデジタル上の知能を、ロボット、機械、車両、センサー、エッジデバイスなどが存在する現実世界における具体的な行動へどのように結び付けるかという点にあります。

現在、多くのロボット、産業機器、センサー、自律型システムは、それぞれ独自のインターフェースやソフトウェア環境で動作しています。そのため、複数メーカーのシステムを統合する場合には、個別開発や複雑なシステムインテグレーションが必要となり、導入コスト、開発期間、拡張性が大きな課題となっています。

RSYNQは、AIと物理デバイスの間にハードウェア非依存のセマンティック・レイヤーを構築することにより、この課題の解決を目指しています。SIPは、AIエージェントや業務システムから与えられる高次の目的を、複数の機械・デバイスにまたがる具体的かつ協調的な動作へ変換し、システム全体の状態、依存関係、実行状況をリアルタイムで把握します。

これにより、単純な「自動化」から、複数の機器がそれぞれの役割と全体目的を理解し、環境変化に応じて動的に協調するインテリジェント・コレオグラフィへの進化を実現します。

From Intent to Choreography.

意図から、協調動作へ

日本市場をフィジカルAIの重要拠点に

日本は、ロボティクス、製造、産業オートメーション、モビリティ、エレクトロニクス等の分野において、世界をリードする技術力と産業基盤を有しています。一方、少子高齢化や労働力不足を背景として、より高度な自動化、自律化、省人化への需要も今後一層高まることが予想されます。

カナデンは、FAシステム、ビル設備、半導体・デバイス、交通、ディフェンス&メディカル、映像・情報通信などの幅広い分野において、長年にわたり顧客およびパートナー企業との関係を築いてきました。

両社は今後、こうしたカナデンの事業基盤と、RSYNQ のフィジカル AI 技術を組み合わせ、日本企業に対する技術提案、実証実験、PoC、システム連携、商用導入等を共同で推進していく予定です。

今回のパートナーシップは、テクノロジーパートナーとの連携強化や、AI・先進オートメーションを活用した新規事業の育成を進めるカナデンの成長戦略とも合致するものです。

マルチベンダー時代を支える共通プラットフォーム

今後のロボティクスおよび自動化市場では、単一メーカーの機器のみでシステム全体が構成されるのではなく、複数メーカーのロボット、センサー、AI、設備、エッジデバイスが混在するマルチベンダー環境が一般的になると両社は考えています。

SIPは、それぞれのデバイス向けに個別の統合ソフトウェアを構築するのではなく、共通のセマンティック・オーケストレーション・レイヤーを介することで、異なるシステム同士の連携を実現することを目指しています。

想定される活用領域には、製造、物流、農業、モビリティ、ホスピタリティ、ヘルスケア、スマートインフラ等が含まれます。

両社は、2026 年第 4 四半期より、日本市場における共同事業活動を本格的に展開していく予定です。

RSYNQ Corporationについて

RSYNQ Corporationは、米国を拠点とするフィジカルAIインフラストラクチャ企業です。同社が開発するSemantic Intent Protocol（SIP）は、AIとロボット、センサー、機械、自律システムを接続するためのミドルウェアおよびオーケストレーション基盤です。

SIP は、AI が生成する高次の意図を、異なるハードウェア環境において標準化・協調化・検証可能な物理動作へ変換します。デバイス固有のインターフェースを抽象化することで、異なるメーカーの AI システムとインテリジェントマシンが、共通のセマンティック・フレームワークを通じて連携することを可能にします。

RSYNQ は、「フィジカル AI のオペレーティング・ランゲージ」を構築し、デジタル上の知能から現実世界における協調動作までをシームレスにつなぐことを目指しています。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 カナデン　　管理本部　総務部

住所：　東京都中央区晴海1丁目8番12号トリトンスクエアZ棟

TEL：　03-6747-8800

Mail：　info-pr-ir@kanaden.co.jp

以上